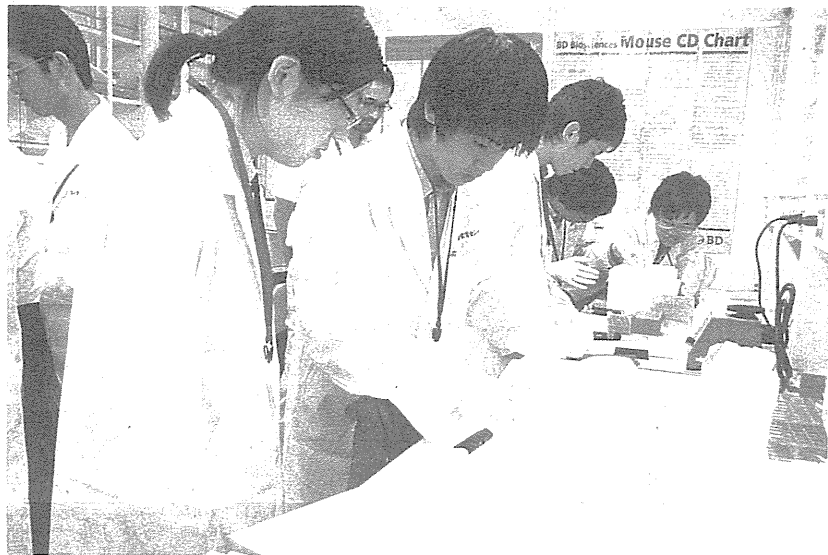


遺伝子組み換え学ぶ



実験に取り組む高校生＝徳島大学疾患ゲノム研究センター

徳大で高校生向け実験講習会

高校生が遺伝子組み換え実験を体験する講習会が28日、徳島市内の徳島大学蔵本キャンパスの疾患ゲノム研究センターで始まった。

公募で集まった県内6高校の21人が参加した。

高濱洋介センター長から基礎知識を学んだあと、研究室で実験開始。オワンクラゲの発光遺伝子を大腸菌のDNAに移植し、培養する作業に取り組んだ。オワンクラゲは昨年、ノーベル賞を受賞

した下村脩米ホストン大名誉教授の研究材料として知られる。講習会は2日間。29日は、一晩たち発光を始めた大腸菌を観察する。城東高校2年の川野純生さん(17)は「器具の使い方

に戸惑った。研究者になるのが夢なので良い経験をさせてもらっています」と話した。

若者の理系離れ対策と

目。として文部科学省が進める「サイエンス・パートナーシップ・プログラム」の一環。今年で5回